

や無いやろナ。あゝチョツとお松ツあん。あすこの一番大きな船で裸に成つて踊つてるのん、貴女處の喜伊さんと違ふか。』

『いんえ、内のおやつさんは此間友達の喧嘩の仲人に遣入つてナ。今夜が其仲直りやね。あんな頼りない親父でも顔を出さんと納らん云やはるので、南へ往てるのやワ。』

『さうか知らんけど、あの赤い禪で踊つてるのん能ふ似たアるし。それにモウ一人の方は、いつも貴女處へ来る清八ツあん云ふ人やがナ。』

『お竹はん何處やね。』

『ソレ、あの鉦や太鼓でドンチャン云はしてる船が有るやろ。あの舳で踊つてる二人。それ此方向いた……。』

『あツ。ホンに清八と内のおやぢやワ。まア〜〜〜。仲直りの盃やなんて旨い事敷しやがつて、あんな事して腐る、えゝモウ腹の立つ、ウーム。』

『ア痛タ、。これお松ツあん。妾いの胸倉絞めてどないするのや。コレ息がつまるがナ。』

『向ふまで手が届かん依て、チョツと貴女の胸倉で間に合はしたんや。』

『そんな殺生な事が有るかいな。あゝ痛やの、咽喉がヒリ〜〜するワ。』

『勘忍しとくなはれや。腹が立つと夢中になるのや。チョツとあの船へ往かうと思ふたら、どないし

たら良えのや。』

『あの通ひ舟に乗つたら連れて行て呉れるがナ。』

『貴女も手傳ふて呉れるやろナ。』

『はア〜手傳ふとも、貴女は喜伊さんの顔を搔きむしりでエ。妾いは清八の向ふ脛嚙り附いたるワ大きに、お竹はん頼んまつせ。……チョツと。通ひ舟のん……。』

『へーい。』

『早よ〜。舟持つて來とくなれ〜。』

『へー。今往きまつせ……。』

『ア、辛氣臭い。舟擔げて走つといなはれ〜。』

『そんな事が出来まつかいナ。……へエお待ち遠さん。』

『サア早ふ遣とくなはれ。早ふ遣とくなはれ。』

『遣とくなはれて、貴女方未だ乗つてなはらしまへんがナ。』

『ア、左様や、乗るのん忘れてんね。さア早ふ出して』

『何處へ遣りまんね。』

『あの、それ、向ふで踊つてますやろがナ。あの船へ早ふ……。』